

# 明石市みちビジョン

～時を超え、人をつなぎ、まちを支える 道づくり～

平成26年9月

明石市

---

---

## 目次

---

---

|                      |     |
|----------------------|-----|
| はじめに                 | 1   |
| I. みちビジョンの概要         | 2   |
| 1. 基本理念              | 2   |
| 2. 位置付け              | 3   |
| 3. みちビジョンの内容         | 4   |
| II. 明石市の道路をとりまく現状と課題 | 5   |
| 1. 明石市の道路の概況         | 5   |
| 2. 道路に関するこれまでの取り組み   | 7   |
| 3. 今後の道路を巡る社会経済情勢    | 17  |
| 4. 国・県の動き            | 22  |
| 5. 今後のみちづくりの課題       | 25  |
| III. めざすべき方向性        | 28  |
| 1. 今後のみちづくりの視点       | 28  |
| 2. 道の将来像             | 29  |
| 3. 実現に向けた施策体系        | 30  |
| IV. 基本方針及び施策の展開方針    | 32  |
| 基本方針1 道を「つかう」        | 32  |
| 基本方針2 道を「まもる」        | 48  |
| 基本方針3 安全・安心の確保       | 63  |
| 基本方針4 にぎわいや活力の創出     | 86  |
| 基本方針5 環境負荷の低減        | 94  |
| V. 計画推進の考え方          | 110 |

### 【付録】

明石市みちビジョン 策定経過

用語集

\*)を付した用語は、付録用語集を参照

## はじめに

かつて道路は、子供の遊び場であり、移動販売の場であり、いつも誰かがいるような生活に密着した最も身近な社会基盤でした。

高度経済成長期以降、自動車交通の増加に対応した道路整備が進められ、道路幅が広くなり、道路の主役は人から自動車に変わっていきました。

ところが近年、人口減少・少子高齢化時代を迎えて、道路整備のあり方が変わろうとしています。

全国的にも厳しい財政状況にあって、新たに道路を整備することが難しくなる一方、自動車交通量の減少が予想されています。

また、昭和初期以降に整備された道路構造物の高齢化の進展や、地球温暖化などの環境問題などが顕在化するとともに、「阪神淡路大震災」や「東日本大震災」を経験したことから、一時避難所や活動拠点など道路の役割も再認識されました。

このような状況を踏まえて、厳しい財政状況の中にあっても、今ある道路を安全で安心、快適な生活のために大切に使い続け、これからのまちづくりに活かしていくための方針を『明石のみちビジョン』としてまとめました。

『明石のみちビジョン』は中長期を見据えた道のあるべき姿についての考え方を示し、10年後の道の将来像と今後における道づくりの基本的な方針を示すものであり、その実現に向けて市民の皆様と一っしょに取り組んで参ります。